山弓連

平・六年　第六号

六年度納射会

新鋭 荒井（吉田）が優勝

——昇級者等の祝賀行事も——

12月11日（日）緑が丘県営弓道場で開催。はじめに、ことしの中大審査に於ける昇級、昇格者と県体育功労者に対して連盟からの記念品を贈り、つづいて、代表者による祝射と、受賞者による答射を厳粛に行って、みんなで喜びを分かちあう。

ことしの受賞者は次の通り。

七段　河田伊三男
大段　広瀬　邦秋
教士　西堀　泰弘
錬士　渡辺孝三郎
〃　松田　恭昭
体育功労賞　遠藤　侃一

また、連盟からの記念品は、和歌を書いた日扇で、揮毫者は保坂豊園氏。和歌は

・朝風　身にはしむなり松風の日には見るねど音ぞ涼しき（八段・五段試験）
・よく引きて引くな抱えよ偏にず離れを己に知らせぬやよく（昭和20・二段）
・有馬山しぐるる茅の常盤木にひとり秋知る種もみじ哉（昭和17・三段試験）

であった。

受賞者は、それぞれが、今後の山弓道を背負って立つ優秀ばかり。願うりは今日を機に益々研鑽を重ね、山梨の弓の進歩に尽されんことを。

競技は、各自四射で行った結果、皆者四人となり、優勝決定の射詰戦により、次の通り入賞者がきまった。今回の優勝は、若冠24才の荒井選手。いよいよ山梨にも若い波が押し寄せてきた。

優勝　荒井紀彦　4中　○○
準優勝　西堀泰弘　4中　○×
三位　塚越次　4中　×
〃　ゼンチン　鹿野太可志　4中　×

関東指導者講習会

——石和で開催

3月11～12日（土日）浦安市総合道場で開催。

この講習会は従来は、五段と錬五を中心にして実施されていたが、去年から錬士対象ということになった。また、10年ほど前まで県射会を会場にしていた時期があったが、去年から再び山梨にかえってきた。地元開催ということになると、運営役員を出したり、経費も若干かかったりするが、一方「見学」という研修をする利もあるから、主催しても損はない。というわけで、次の5名の受講者のほか、何人かの見学者もあるそういうと勉強した。

受講者は次の通り。

小林源治（錬六）　大村利正（錬六）
伊藤　昇（錬五）　松田恭昭（錬五）
中村ミツエ（錬五）

新年初射会

1月8日（日）緑が丘県営弓道場で開催。

はじめに上条会長の力強い年頭挨拶があり、会員ことし奮斗を誓いあう。そのあと、各自一手の新年祝射と、それに引き続き、4射ずつの競技を行う。但し、ことしは、祝射の的中数も競技成績に加えることにしたので、6射が競技成績の対象となる。

団体戦は各地区それぞれ上位10人の成績で争われるので、参加者を多くすれば有利。ことしも20人を参加させた峡東地区が優勝した。

個人戦では6射皆中同士の射詰め決勝となり、あわや女子選手の優勝かと手に汗を握らせたが……成績次の通り。

○個人戦
優勝　小俣太一　6中　○
準優勝　名取朋子　6中　×
三位　秋山一長　5中

○団体戦

地区	峡東	峡南	峡西・峡北	郡内	累計
在10人的中数	30	19	27	31	17
参加実人数	12	6	12	20	8

訃報

ことしは、おおぜいの弓友をなくしました。つつしんでご眼福をお祈り致します。

宇佐美次雄さん　69才　射延
12月1日死去。錬士五段。自分の会社の敷地に弓道場を作って、若人や町民に開放し、射延弓連会を育てた。「宇佐美建設」チームを率いて勤労者大会に出場したこともあった。支部長、審査部副部長等を歴任した。すぐれた指導者でもあった。

蔵田源造さん　66才　山梨
12月3日死去。四段。達人神社を根拠地にした古い弓引きのひとり。各地の祭礼部会で活躍したかその雄姿が目にうかぶ。

石原松男さん　77才　一宮
2月10日死去。四段。一宮浅間社グループの長老のひとりとして、永年活躍してきた。ここ数年前までは県連射会にも顔を見せていたが……

岡田武文さん　91才　境川
2月8日死去。錬士六段（道授）。伝統のある境川村の弓道を、故宮服利重氏と二人でひっぱってきた功労者。県連の理事長、事務局長をも永年にわたって勤め、戦後再建期の連盟運営に活躍した。10年来病床に臥せっていたが、盛岡の境川村弓道場の完成を見てから亡くなったことが、せめてもの……

坐光寺貞良さん　93才　市川大門
12月4日死去。範士八段（道授）。戦前から70年に及ぶ古い弓歴をもち、山梨弓連会長を10年つとめた。数年前までは毎朝6時に市川道場で朝練に励んでいたが、このところ体調ふ調で休みがちだった。最後の雄姿は、平成6年の全国ねんりんピック大会に最高令送手として出場した時。

全国高校選抜大会

インターハイと並ぶ、高校生の二大イベント。明治神宮至誠館で3月24～26日に向かれる。山梨からは、秋の予選で勝った機山工高（男子）と甲府商高（女子）が県代表として出場して全国の強豪と覇を争う。

選手は次の通り。

○機山工（監督　名取良太）
松土　尚（2年）設　富安　亮（2年）設
矢野宏幸（2年）2段
（補）清水昭彦（1年）1級
○甲商高（監督　大塚正敏）
阪野文矢（2年）初段　小川暁子（2年）初段
植松春佳（2年）初段
（補）鈴木多佳（2年）初段

このところ山梨の高校勢は、各大会で好成績を残しているので、前評判も高い。プレッシャーに負けず、ことしも大きな土産を持ち帰ることを祈る。

事務局から

○第6号をもって、本年度も終りです。書き手がだんだん年とって、だんだん目が暗くなって、だんだん手が震えてきて、その結果、だんだん字が乱れてきて、さぞ読み難かったと思います。ご苦労をかけました。

○考えてみると、編集子が「国体部だより」という名で会報を出しはじめてから、この号がちょうど通算60号になります。その間12年間。60号というのは、つまり還暦にあたります。新年度には、また新しい、よそおいで再出発することを期待しています。

○12年前のことを思い出してみると、その間における山弓連の発展、進歩には隔世の感があります。連盟をあげての、全会員の努力が実ったものだと思います。よろこばしい限です。その間に、だんだん衰えてきた編集子の気力、体力（知力も含めて）と、まさに反比例しているとも、いま苦笑いしているところです。

○皆さん、元気でがんばって下さい。みんな仲よく、みんなで力を合わせて、春なかぜ吹く山の朝霞（八雲亭）